

事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-3
高齢者福祉の推進

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

建築住宅課長 大國 博史

電話番号

0852-22-5216

| | | |
|---------|--|--|
| 事務事業の名称 | しまね長寿の住まいリフォーム助成事業 | |
| 目的 | (1) 対象 | 65歳以上の高齢者若しくは身体障がい者が居住する住宅、又は55歳以上の世帯主が居住する住宅をバリアフリーリフォームする者 |
| | (2) 意図 | 高齢者等が安全で安心して生活出来るよう、住宅のバリアフリー化を促進する。 |
| 事業概要 | 既存1戸建て住宅のバリアフリーに要する費用の一部を助成する 【補助要件】 ・バリアフリー化に要する費用の2.3%以内、上限額は40万円（部位毎の上限設定あり） ・バリアフリー化に要する費用が20万円以上500万円以下で、他の工事を含む工事費総額の1/2以上であること ・改修後の住宅が一定の「整備基準」に適合していること | |

2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 | | 年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 単位 |
|----------|-------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 1 | 指標名 バリアフリー改修を実施した住宅数 | 目標値 | 500.0 | 500.0 | 500.0 | 500.0 | 500.0 | 戸 |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 助成事業実施数 | 実績値 | 393.0 | 467.0 | | | | % |
| | 達成率 | 78.6 | 93.4 | - | - | - | | |
| 2 | 指標名 | 目標値 | | | | | | |
| | | 取組目標値 | | | | | | |
| | 式・定義 | 実績値 | | | | | | % |
| | | 達成率 | - | - | - | - | - | |

3. 事業費

| | 前年度実績 | 今年度計画 |
|--------------|---------|---------|
| 事業費 (b) (千円) | 175,000 | 175,000 |
| うち一般財源 (千円) | 87,500 | 87,500 |

4. 改善策の実施状況

| | |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成28年度は事業説明会等により、周知を図り、平成27年度は393件であった助成件数が、平成28年度は467件まで回復した。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年度は393件止まりであった助成件数は、平成28年度は467件まで回復した。
 助成制度の周知について、事業説明会や、パンフレットの配布による成果があったと思われる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

事業実施数は回復したが、予定数には達しなかった。
 事業実績に偏在があり、利用の進まない地域がある。

②困っている状況が発生している「原因」

事業の周知はこれまで事業者向け中心で行っており、高齢者や福祉部局などへの周知が届いていない。

③原因を解消するための「課題」

高齢者に直接届く周知の方法や、福祉部局との連携について再検討する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

高齢者へ制度のお知らせが出来るよう、高齢者へ支援を行う団体などを経由した周知に取り組む。
 地域包括ケアシステムにおいて、住宅のバリアフリー化による在宅支援体制の強化を図ることが重要であり、介護保険での改修では足りない部分を補完するために、本制度の活用が図られるよう、健康福祉部局と連携して、ケアマネージャーや、市町村担当者への周知に取り組む。